

雑感 センター試験・選択問題の選択率

■ 2015年のセンター試験において、数学IA、IIBの選択問題について、どの問題がどの程度選択されたのかが気になっていた。

河合塾のGuideline 2015 7・8月号にそのデータが載っていて、興味深く見た。

■ 数学IAの第4問(確率)、第5問(整数)、第6問(図形)について、選択パターンと平均点は次のようであったという。

選択パターン	選 択 率	平 均 点
確率+整数	60.9%	26.3
確率+ 図形	12.1%	27.8
整数+図形	24.1%	27.5

「整数」の選択率の高さに、正直驚いた。

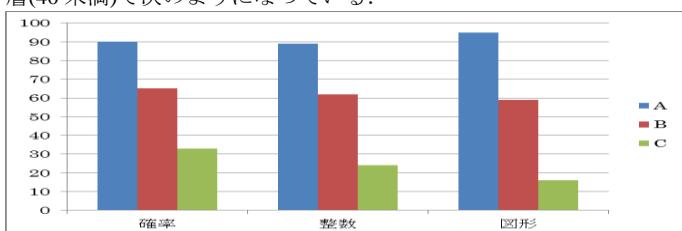
数学Aは上の3分野から最低2分野を選択履修することになっているが、整数の履修率はこんなにも高かったのであろうか。

平均点からすると、「図形」選択者に若干有利な傾向がある。

ただ、(基礎となるデータが異なるが)Benesseの資料(2015大学入試センター試験徹底分析)では、この3問の平均点が順に12.9点、12.5点、12.6点で差がないことから考えると、図形選択が有利だったのではなく、「成績の良い受験生が図形を選択する傾向があった」ということかも知れない。

それを裏付けるデータが、Benesseのこの資料に載っている。

大問別層別の得点率で、A層(偏差値60以上)、B層(40~60)、C層(40未満)で次のようになっている。



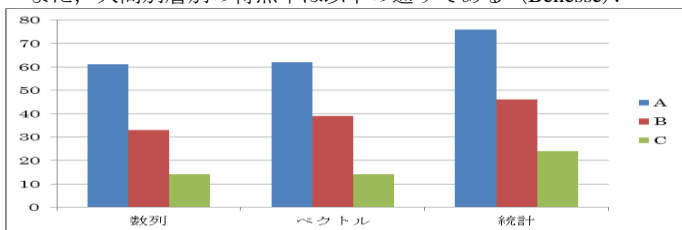
A層の図形問題選択者にとっては、今回の図形問題は得点しやすかったため、その結果の反映と見ればよいのであろうか。

■ 数学IIBについて、第3問(数列)、第4問(ベクトル)、第5問(統計)についても、同様の資料を載せる。

選択パターン	選 択 率	平 均 点
数列+ベクトル	94.7%	19.5
数列+ 統計	2.0%	15.3
ベクトル+統計	1.5%	14.8

平均点は順に、6.9点、7.7点、7.5点である(Benesse)。

また、大問別層別の得点率は以下の通りである(Benesse)。



統計の選択者が非常に少ないため、分析は難しい。

最初から、統計は選択肢になかったという受験生が大半である中、平均点からすると、統計を選んだ受験生は、成績上位層には少なかったということだろう。

■ どの問題を選択したらよいのかは、履修してあるかどうかとも関連してくるが、非常に難しい。

多くの分野を履修させて自由に選択させるのが良いように見えても、限られた試験時間の中では逆に迷ってしまうと言う問題も生じてしまう。

■ とりわけIIBの難しさが際だつ中、統計を選択肢に加えるような指導を模索する動きもあると聞くが、奏功するかは神のみぞ知る。